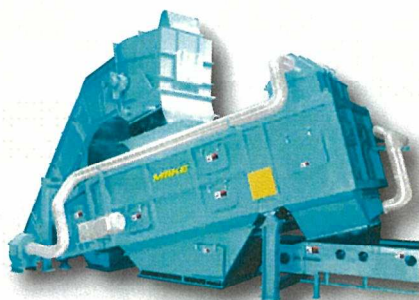


MIIKE

2019 年度 環境経営レポート
(対象期間 2019 年 9 月 1 日～ 2020 年 8 月 31 日)

環境関連機器製造一筋七十年

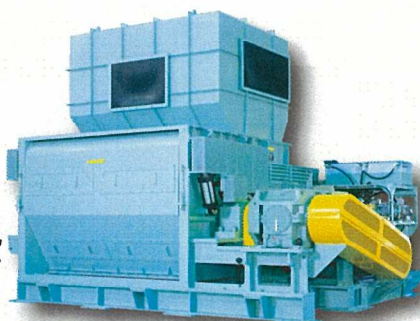
選
別



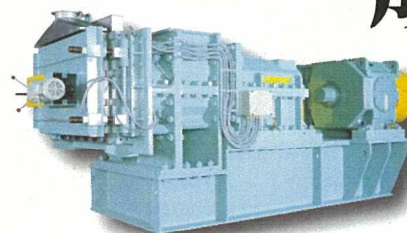
A
I
選
別



破
砕



成
形



作成日：2020 年 10 月 1 日

目 次

項 目	
環境経営方針	1
組織の概要	2
認証・登録の対象組織・活動、事業・製品の紹介	3～5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	8～11
環境関連法規等の遵守状況及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無	12
外部からの環境上の苦情・要望、緊急事態対応の訓練	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	13

環境経営方針

リサイクル・ルネッサンス

〈環境経営理念〉

当社は地球環境を守る為に、未利用資源の有効利用を重要テーマとしてきました。

この事は 21 世紀を迎え、益々人類の重要な課題となっています。美しい海と大地を次世代へと残す事が、私達 1 人 1 人の使命であると考えています。

当社では、今後とも廃棄物を未利用資源として再利用を図り、新しい産業の創造を目指し、社会に貢献したいと願っています。

〈環境保全への行動指針〉

- 1、環境負荷の実態を調査し把握し、会社全体で環境目標を設定する。
- 2、環境目標を達成する為に、具体的な改善計画を策定し実施を行う。
- 3、環境関連の法令、規制や当社が約束した項目を遵守します。
- 4、社員に環境経営方針を周知すると共に、環境活動への教育訓練を実施する。
- 5、環境負荷を改善する為に、次の事項を重点とします。
 - (1) 二酸化炭素排出量の抑制
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 業務全般における省資源、省エネルギー
 - (4) 環境機器メーカーとして機械の改良
- 6、課題とチャンスの明確化をふまえて、快適な職場作りを目指す。

改訂日 ： 2020 年 8 月 31 日

代表取締役社長 **小林秀匡**

□ 組織の概要

(1)名称及び代表者名

株式会社 御池鐵工所

代表取締役社長 小林 秀匡

(2)所在地

本社・工場	広島県福山市神辺町川南 396-2	TEL 084-963-5500
関東営業所	埼玉県川口市芝西二丁目 4-19	TEL 048-261-1166
九州営業所	福岡県福岡市東区多の津 3-9-1	TEL 092-629-0450
札幌営業所	北海道札幌市中央区北一条西 3-3-31	TEL 011-223-1208

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	管理部総務課 課長	平奥 隆志	TEL 084-963-5500
担当者	管理部総務課 係長	山内 裕陽	TEL 084-963-5500

E-mail : soumu@miike.co.jp

(4)事業内容

環境関連機器及びプラントの製造

RPF 製造プラント、RDF 製造プラント、粗大ゴミ破碎・選別プラント、廃木材有効利用プラント、ペットボトルリサイクルプラント、木質ペレット製造プラント、パーク堆肥製造プラント、各種廃棄物の中間処理設備、粗大ゴミ破碎機、大型破碎機、移動式破碎機、プラスチック破碎機、オガ粉製造機、モミガラ粉碎機、各種破碎・粉碎、傾斜型選別機、比重選別機、篩機、各種選別機、各種乾燥機、多目的造粒機、多目的圧縮成形機

特定建設業としての機械器具の設置、保全修繕業務



(5)事業の規模

売上高 6,657 百万円 (2019 年度)

	本社・工場	関東営業所	九州営業所	札幌営業所	合計
従業員 名	135 名	11 名	5 名	3 名	154 名
延べ床面積 m ²	11,100 m ²	110 m ²	39 m ²	33 m ²	11,282 m ²

(6)事業年度 9 月 1 日～8 月 31 日

□ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社 御池鐵工所

対象事業所： 本社・工場

関東営業所

九州営業所

札幌営業所

対象活動：

環境関連機器及びプラントの製造

特定建設業としての機械器具の設置、保全修繕業務

□ 事業や製品(商品)の紹介



本社 事務所棟

工場棟

廃棄物を 価値ある固形燃料に

RPF (固形燃料) Refuse Paper and Plastic Fuel 製造プラント

RPF製造設備基本フロー

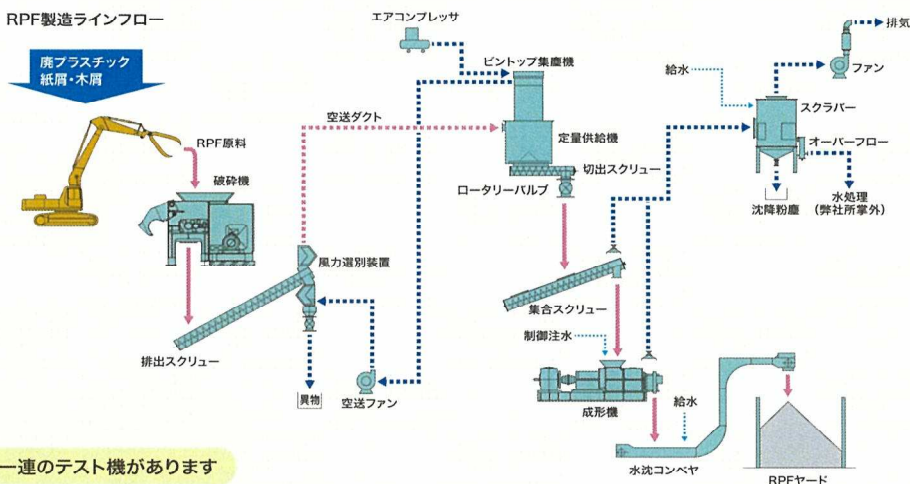


1. 破碎工程：成形機に安定的に投入できるよう、様々な形状の原料を**一定の形状に**破碎します。
2. 選別工程：金属類などのRPFに**不適切なものを除去**します。
3. 貯留・定量供給工程：破碎工程で一定の形状に破碎された原料を、**連続的かつ安定的に**成形機に送り込みます。
4. 成形工程：**一定の形状に**成形します。
5. 冷却工程：成形時に発生する**熱を除去**します。

また、これらの工程以外にも必要に応じて「乾燥」が必要になる場合があります。

MIKEでは上記フローに示した「破碎」「選別」「貯留及び定量供給」「成形」「冷却」の5工程の機械設備はもちろん、原料に応じた「乾燥」の設備も全て自社内で製造しております。

RPF製造ラインフロー



一連のテスト機があります

強力な破碎能力と高いコストパフォーマンスの両立を実現！

MIKE ロータリープレスクラッシャー／ ツインプレスクラッシャー (RPC/TPCシリーズ)



- 大きな処理物やベラー品もそのまま投入できる大容量ホッパー
- メンテナンス性を高める油圧開閉式スクリーン
- 強力な破碎能力と均一な破碎精度
- 噛み込みを飛躍的に向上させるダブルブッシャー（TPCのみ）

嵩比重の小さい物に抜群の威力を発揮

MIKE 定量供給機ドラムフィーダー (MDFシリーズ)



- 円筒形状により、省スペース化を実現。
- 攪拌装置により、ブリッジの形成を阻止し、安定した連続供給が可能。
- 壁面付着の防止により、含水率の高い材料も定量供給可能。
- 点検窓付きの円形タンクのため、容量が一目で確認可能。

廃棄物を資源に変える多目的造粒機

MIKE ペレットミル (SPMシリーズ)



- 多種多様な原材料の造粒が可能です。
- 材料、用途に応じてφ3～φ20の粒度のペレット製造が可能です。
- コンパクトな設計のため、小スペースで設置可能です。
- 摩擦熱以外の加熱は行わないので、ガスの発生や火災などの心配が少なく安全です。

固形燃料(RPF)の製造とかさばる廃棄物の減容固形化

MIKE マルチホーマー (MH-III、IVシリーズ)



- 都市ごみの固形燃料化
- 廃プラスチック固形燃料化
- 古紙の固形燃料化
- かさばる廃棄物の減容固形化
- シュレッダーダストの減容固形化

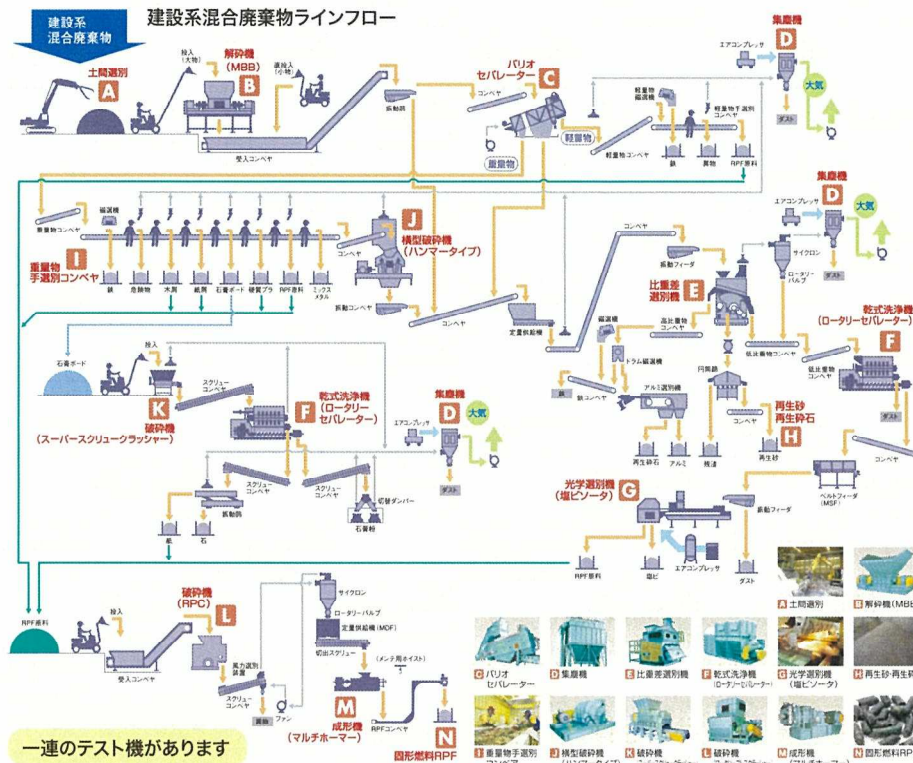


固形燃料RPF

混ぜればゴミ・
分ければ資源

建設系混合廃棄物 リサイクルプラント

- 徹底して有価物を取り出し、その有効利用と再資源化(金属・木屑・紙屑・廃プラスチック・石膏ボード・砂利・砂 他)
- 不足するRPF原料である廃プラスチックを確保する
- 有価物を取り出したあとの残渣を精選し建設副資材にする
- 建設系廃棄物のリサイクル率90%を目指す
- 最終処分場への持込物の減量化と処分費用の節減



建築系混合廃棄物の選別に! あらゆる廃棄物のリサイクル選別に!

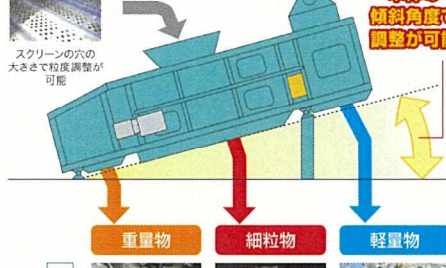
MIIKE バリオセパレーター
(MVSRシリーズ)

揺動エレメント



投入口

本体の
傾斜角度で
調整が可能

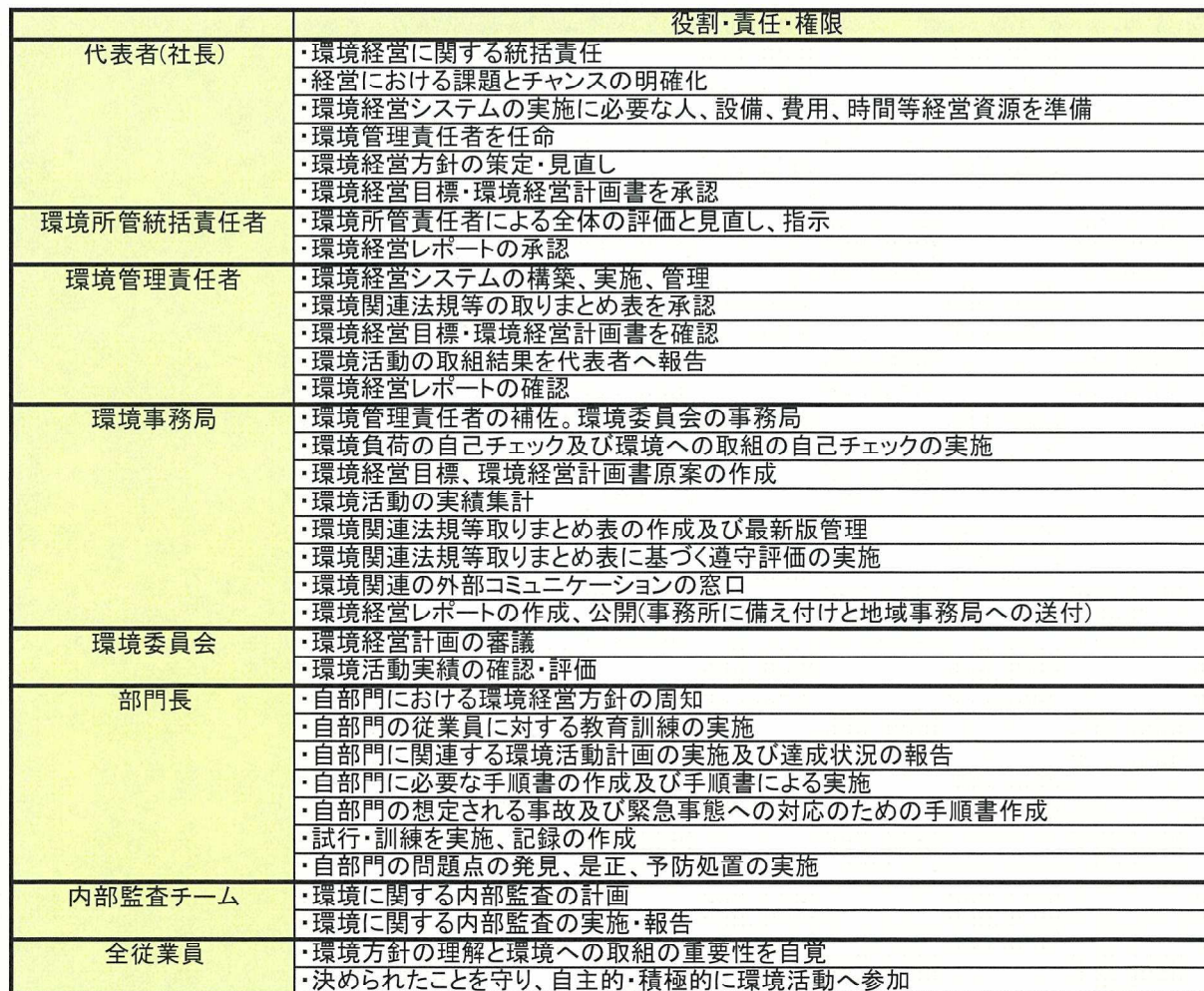


- 建築系混合廃棄物の選別(RPF原料の選別)
- 固形燃料(RPF)製造プラントの前処理選別(RPF燃料用廃プラの選別)
- シュレッダーダストの選別
- 容器包装プラスチックの選別
- 資源ゴミ(ビン・カン)の選別
- 埋立地の掘り起こし材の選別
- 多種多様な廃棄物リサイクル設備の前処理工程に使用

建築
廃材



未利用資源の有効利用をめざす



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2018年	2019年	2020年
二酸化炭素総排出量	kg-co ₂	911,764	880,985	
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	26,270	49,880	
産業廃棄物排出量	kg	13,413	3,861	
水使用量	m ³	1,406	1,386	

※二酸化炭素排出量係数

0.677 kg-co₂/kWh 中国電力の係数

□環境経営目標及びその実績

今期売上 665,775万円

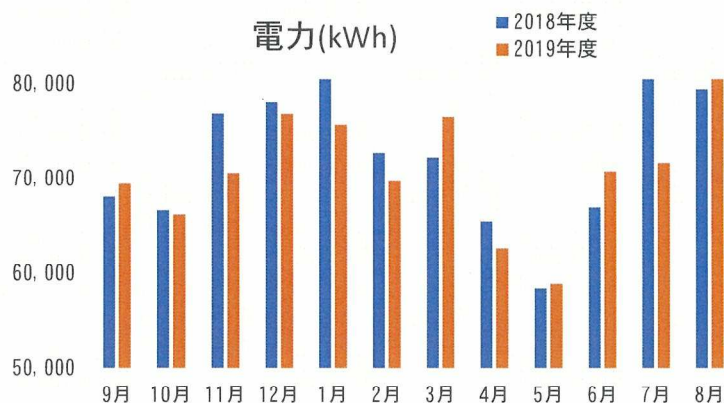
年 度 項 目	基準値		2019年		評 価	2020年	2021年
	(基準年)		(目標)	実績		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 売上原単位	kWh	879, 680	862, 086	849, 516	○	844, 492	835, 696
	kWh 基準年度比	2018年	98%	97%		96%	95%
	kWh/万円	1. 32	1. 29	1. 27	○	1. 26	1. 25
液化石油ガス（LPG）による二酸化炭素削減	m³	770	755	741	○	739	731
	m³ 基準年度比	2018年	98%	96%		96%	95%
灯油による二酸化炭素削減	ℓ	10, 524	10, 313	5, 392	○	10, 103	9, 997
	基準年度比	2018年	98%	51%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	ℓ	115, 054	112, 752	115, 427	×	110, 451	109, 301
	基準年度比	2018年	98%	100%		96%	95%
一般廃棄物の削減	kg	26, 270	25, 745	49, 880	×	25, 219	24, 956
	基準年度比	2018年	98%	189%		96%	95%
産業廃棄物の削減	kg	13, 413	13, 144	3, 861	○	12, 876	12, 742
	基準年度比	2018年	98%	29%		96%	95%
水道水の削減	m³	1, 406	1, 378	1, 386	×	13, 497	13, 357
	基準年度比	2018年	98%	98%		96%	95%
特定化学物質使用量削減 （含有量）	kg	6, 199	6, 075	5, 992	○	5, 953	5, 833
	基準年度比	2018年	98%	96%		96%	95%
環境に配慮した生産生活動	行動目標（次項による）						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

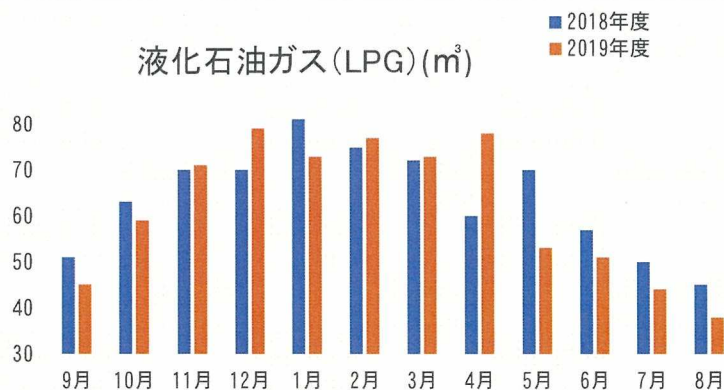
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×できなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全般的に使用量が下がったが、9、10、12、3、5、6、8月の月次目標に対しては未達成なので削減量が多いモデル月を分析して反映出来るようにする。
・事務所の空調温度適正化（冷房28℃暖房20℃）	○	
・工場棟の空調温度適正化	○	
・不要照明の消灯	○	
・退社時に各エリア照明・冷暖房の管理	○	
・OA機器の省エネ	○	
・デマンド管理により電量の削減	×	



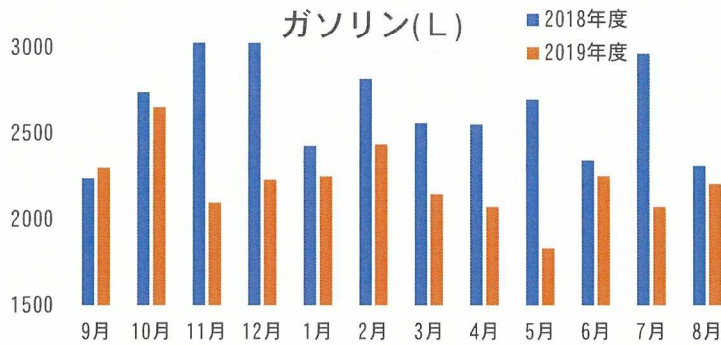
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	68,064	66,660	76,812	78,006	84,540	72,666	72,182	65,496	58,416	66,954	90,468	79,416
2019年度	69,414	66,228	70,560	76,806	75,684	69,810	76,488	62,640	58,872	70,746	71,610	80,658

液化石油ガス（LPG）による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	提供するメニューに影響するのか、時節的に気温に影響されるのか多面的に調査が必要だと思われる。
・事務所手洗いの温水温度の適正化	○	
・食堂厨房の温水温度の適正化	○	
・食堂厨房でのガス使用量把握	○	

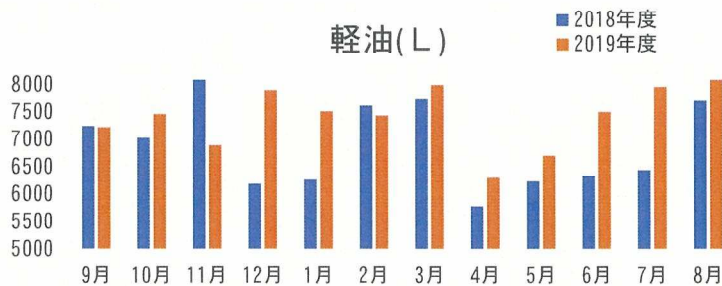


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	51	63	70	70	87	75	72	60	70	57	50	45
2019年度	45	59	71	79	73	77	73	78	53	51	44	38

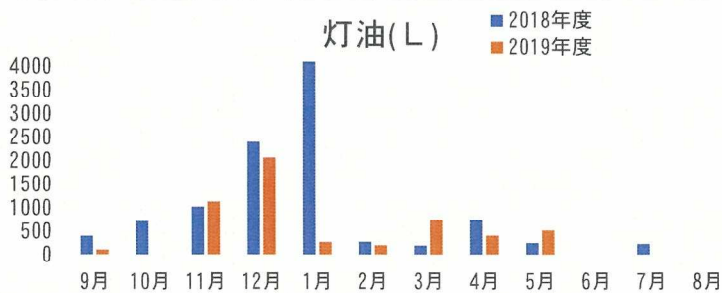
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	燃費向上車の入替時期の過度期にある。入替推進だけでなく、引続きルートやアイドリング時間の削減に努めていく。
・エコ運転の実施	○	
・運行前点検の実施	○	
・エリア別営業活動の見直し	○	
・効率的なルール設定	○	
・交通機関の利用	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	2237	2740	3196	3433	2428	2815	2558	2551	2698	2341	2964	2309
2019年度	2299	2653	2095	2231	2249	2437	2148	2070	1829	2251	2071	2206

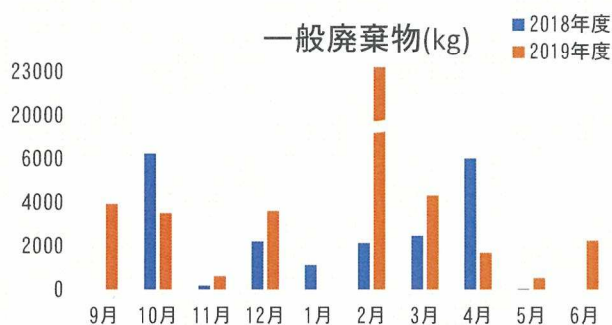


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	7234	7020	8200	6181	6257	7611	7724	5772	6226	6329	6434	7696
2019年度	7212	7449	6884	7896	7502	7425	7986	6293	6695	7489	7951	8106



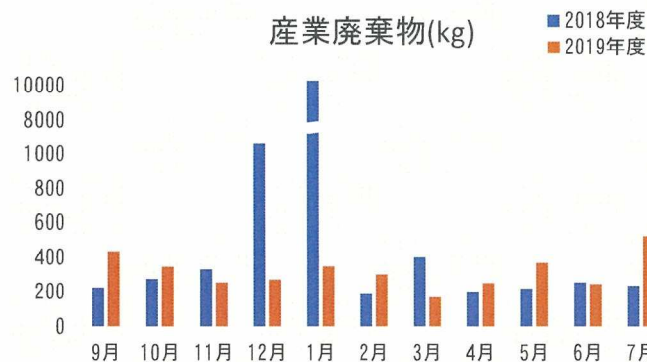
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	397	710	1018	2395	4326	271	193	738	248	0	228	0
2019年度	101	0	1125	2060	264	198	735	400	509	0	0	0

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	環境関連機器の製造を生業にしているという意識に、もう一度立ち回り従業員教育が急務だという事が非常に痛感した。
・ゴミ分別の徹底	○	
・コピー紙裏紙の利用	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・電子メール利用によるペーパーレス化	○	



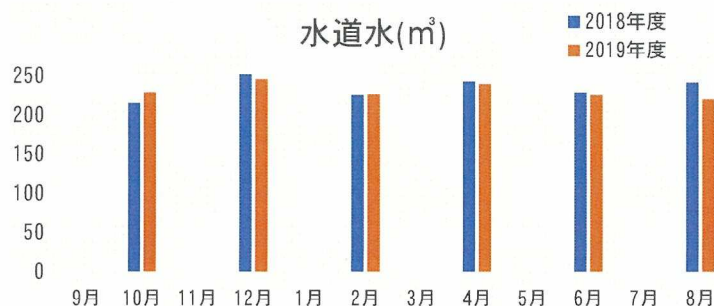
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	0	6240	180	2200	1110	2130	2460	6010	30	0	5910	0
2019年度	3920	3520	610	3620	0	22940	4310	1690	510	2240	960	5560

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	年間排出量目標を明示して、引続き年間で500kg削減を念頭において取組んでいく。
・分別回収の徹底	○	
・廃棄物の発生抑制	○	
・素材別ボックスの設置	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	223	273	328	1061	9435	191	398	201	217	253	234	599
2019年度	432	344	252	270	346	299	167	248	365	243	520	375

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	状況は常に変化していくので、目標値の是正なども踏まえて改めて検討すべきである。
・節水シールの貼付けとポスター掲示	○	
・自動水栓取付け	○	
・地下水の有効活用	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年度	0	215	0	252	0	225	0	243	0	229	0	242
2019年度	0	229	0	246	0	226	0	240	0	225	0	220

特定化学物質使用量削減（含有量）	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	内製する時点だけでなく、出張先でのタッチアップなどの使用についても保管記録を現物照合して仔細に確認していく。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・使用量の把握・記録	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	
・代替物質の検討	○	

グリーン購入の抑制	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・有害性の少ない資材の購入	×	まずは常用消耗品の割出など課題を1点づつ潰して対策を講ずる。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	×	
・燃費のよい自動車の採用	×	
・事務用品グリーン購入	×	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・追加改良費の削減	○	生産性の向上は勿論の事、能率向上の分析までが出来得る土壌を築いていく。
・環境に配慮した製品開発	○	
・歩留まり率の向上	○	
・廃棄物の削減	○	

問題を解決しチャンスを活かす取組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・働き方改革の整備	×	各部署に落とし込みを行い、是正活動も出来た。
・環境に配慮した製品開発	○	
・追加改良費の削減	○	
・技術力向上の教育	○	

□環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規則は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	産業廃棄物（廃プラ、木屑、燃焼ゴミ、廃ガラス、廃油、金属等）
化学物質排出把握管理促進法	第一、第二特定化学物質
労働安全衛生法	作業環境測定、プレス機、床上クレーン、クランプ、健康診断など
騒音規制法	送風機、プレス機、切断機、空気圧縮機及び送風機
工場立地法	緑地帯の確保
浄化槽法	浄化槽保守点検
高圧ガス保安法	ボンベ類の転倒防止
消防法（危険物）	消防設備の設置、危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
顧客要求事項	

環境関連法規則等順守状況の評価結果、環境関連法規則等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

ありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日：2020年7月1日	■実施場所： 本社工場 B棟前
■参加者： 新入社員 實藤、槇田、三嶋、田中、北村 中途採用 竹本、桑田、 亀山、秋田、赤木、三好、井上 指導者 猪原、真安	
■実施内容： ☐ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☐ 避難訓練 ☒ 救護訓練 消火器や消火栓の使用方法を説明し、実際に消火器を使い消火したり 消火栓も使い放水を実施。 心肺蘇生のやり方やAEDの使い方を実際。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
コロナ感染防止から、新入社員と中途採用の少人数での消火・救護 訓練となりましたが、人数が少ない事もあり、参加者全員に細かく 教育する事が出来た。	
■実施状況の様子	
	
	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2020年9月25日

今回、初めて環境マネジメントシステムの実施を行った。社業として環境関連機器製造を行っている。結果として地球環境にお客様を通じて寄与しているが、直接的な関わりとしてこの度の環境マネジメントシステムを活用する事により裏打ちを行う、明確化して社内制度の一貫として推進していき外部からの刺激を受けステップアップしていきたい。また、セミクローズドリサイクルや未利用資源のカスケード利用の需要も高まる事から技術開発にも注力していく。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり